

# 素敵な環境こそ大きな財産

## 私達のみなぐる力で未来へと

『山路を登りながら、こう考えた。』の冒頭でおなじみの『草枕』は、夏目漱石が熊本第五高等学校の教師だった頃、小犬温泉（天水町）を訪れ、のちに、その旅行を素材に書かれています。小犬旅行の道筋は、『草枕ハイキングコース』として漱石文学を愛する人、脚自慢の多くの

人に親しまれています。出発点の熊本市島崎町から、鎌坂を登り、鳥越峠、峠の茶屋、野出峠を経て有明海を一望におさめて下っていく約十四キロ。コースの終点には、漱石が泊まった前田山子の別邸が今もなお森閑とした中に漱石館としてたずみ、近くには鏡ヶ池のモデルと

いわれている田尻家の庭池も、美しい水面を残しています。このコースを探索すると時間が止まって、『草枕』の謎めいた女主人公『那美さん』が現われる様な、とても神秘的な気分を満喫できます。

また、『天水みかん物語』も有名です。島原半島、雲仙岳を望む二の岳三の岳の裾野に広がる丘陵地のオレンジベルトは、古くからみかんの由来の地として知られています。先祖に感謝しながら、品種改良を重ねるおいしいみかんの生産地です。それに、無害な手作りみかん石けんの普及で、環境問題にも取り組んでいます。素敵な環境こそ大きな財産——町では今、この恵まれた自然景観を大切に守り育てながら、まちづくりを進めています。

古き良きものを残しつつ、未来へ向かって走り続けている天水町へ足を運んでみてはいかがでしょうか。十一月二十三日、毎年恒例の『みかんの里スポーツまつり』が行われます。収穫期で黄金色に染まるみかんの里でマラソン、テニス、ゲートボールを楽しみましょう。気分はもう、みかんピクニックです。



# 天水町

総面積 21.48km<sup>2</sup>  
総人口 7,785人  
特産品 メロン、いちご、みかん、花さ、蜂蜜(玉水)他



# 北から 南から

# 八代市

総面積 146.70km<sup>2</sup>  
総人口 109,820人  
特産品 イ草、メロン、トマト、晩白柚、竹輪、高田虎、竹細工、手漉き和紙、刀剣他

県内一の大河、日本三急流の一つ球磨川の河口に位置する八代市。農業と工業のバランスのとれた発展を見せている県下第二の都市です。

広い干拓地を活かした農業は、イ草、メロン、トマトなどが主産品で日本でも有数の高生産性を誇っています。また果樹では、特産の晩白柚が有名です。

工業は十條製紙、メルシャン(旧

三楽、興人、YKK、ヤマハ発動機の五大工場が活況を呈しています。さらに、丸紅の飼料コンビナート、寿屋の物流センターの進出が八月に決まりました。西回り自動車道、新幹線の整備につれて、南九州への玄関口として、その重要性が高まっています。さらに、夢の架け橋、八代天草架橋の実現に精力的に取り組んでいます。

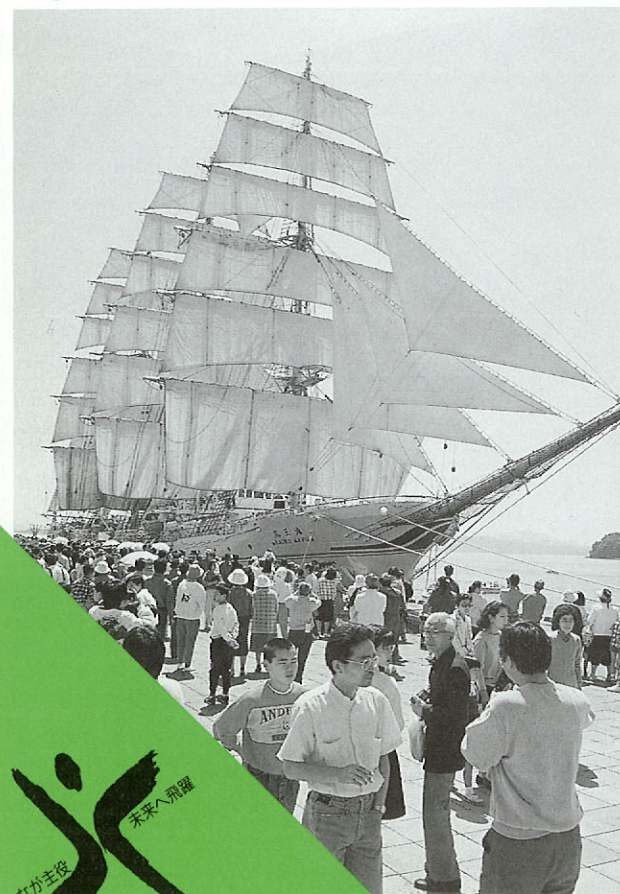


観光面では、父の刀傷平癒を願う浜田六郎左衛門により応永十六年(一四〇九)に発見された日奈久温泉、加藤正方により築城された江戸時代の一国一城令の例外である八代城跡、肥後菅浦と松井文庫で名高い松浜軒、観光漁業と温泉、史跡、庭園、味覚と

観光資源にも恵まれています。また、来年秋に開館予定の博物館は八代観光の目玉として期待されています。景行天皇御巡行の地で、「聞きし如まこと貴く奇(くす)しくも神さび居るかこれの水島」と万葉集にも歌われた水島や不知火でいにしへの時代から世に知られた八代市。ここでは、河童九千坊の上陸地で日本の河童伝説発祥の地です。その他、彦一とんち話や妙見祭の亀蛇などの不思議な人物や伝説に彩られています。彼らを身近に感じながら、八代の人たちは生活しています。イッペン、ヤッチ口に来てみなっせ。



# 伸びゆく県南の拠点都市



Rolling30  
～明日そして未来へ～